

おはようございます。

長崎大学人、河野茂です。

9月になりました。新しい季節です。

私にとっては、任期の最後の月ですが、大学にとっては、永安新学長のもと、10月より新しい時代の幕開けになります。

ぜひ、教職員の皆さんが夢を育み、新しい時代を歩んで欲しいと思います。

2020年1月4日に、私は、教職員の皆さんへ直接メール配信を始めました。

その中で、〈プラネタリーヘルスに貢献する長崎大学宣言〉も行いました。

その後、新型コロナウイルスのパンデミックが発生し、4月20日より、学生も含んだ全長崎大学人へ〈月曜通信〉という名で配信を始めました。

100回近くになるのは、大変な喜びです。

<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/pickup/message.html>

今月で〈月曜通信〉は、終わりとなります。最後の数回、お付き合いください。

今回のテーマは、夢。私はよく、「夢」という文字を書にします。

理由は、簡単です。人は、夢を抱いて生きてゆくからです。

私は、長崎県では唯一海のない波佐見町という小さな町で生まれ育ちました。

子供の頃はテレビで「ローンレンジャー」という西部劇が人気でした。

「ハイヨ〜シルバー、白馬シルバーに跨る仮面の男、これぞ正義のローンレンジャー」、と、いう主人公のセリフを今でも覚えています。

ヒーローになりたい、本当に単純な子供の夢でした。夢はいつも抱いていました。

思春期なると医者になり故郷波佐見町で開業したい、研究者となるとこの研究で世界を驚かせたい、医学部長になると国家試験に全員合格させたい、病院長になると日本一と呼ばれる病院にしたい…などなど、大なり小なりの夢を持って人生を歩んでゆきました。

考えてみると、個人的な夢は徐々に消えてゆき、長崎大学丸という大きな船の夢となったような気がします。

誰しもそうですが、夢や希望がないと、この厳しい現実の中では生きてゆけなかったのかもしれない。

でも、僕には夢がない、私にはそんな資質はない、…と思う人もいるでしょう。

それはそれで、かまいません。ただ、長崎大学人としては、長崎大学の一員としては、ここで夢をみつけて、人生を歩んで欲しいと願っています。

なぜならば、長崎大学の先人が夢見た延長上に私たちは立っているからです。

長崎大学は、1857年（安政4年）オランダ人軍医のポンペが幕府医官松本良順ら12名を相手に医学講義をしたところから医学部の源流が始まります。

1865年（慶應元年）には薬学部の源流、1874年（明治7年）には教育学部の源流、1905年（明治38年）には経済学部の源流。1928年（昭和3年）には水産学部の源流が始まりました。

それぞれ、その時々の人々の夢がかない、学部の源が出来ました。

夢により大学は大きく発展してゆきます。1966年工学部、1979年歯学部、1997年環境科学部、2014年多文化社会学部、2020年情報データ科学部が設立されました。

10学部、8研究科。

夢の結実が、まさに、本学なのです。

私達は、夢の延長上に生きています。

そして、私達は夢を追いかけて次につなげる必要があります。

さて、あなたの夢は何でしょうか？

ぜひ、お聞かせください。お気軽にメールください。

皆さんの夢を聞きながら、私は、最後のひとか月の任務にあたりたいと思っています。